

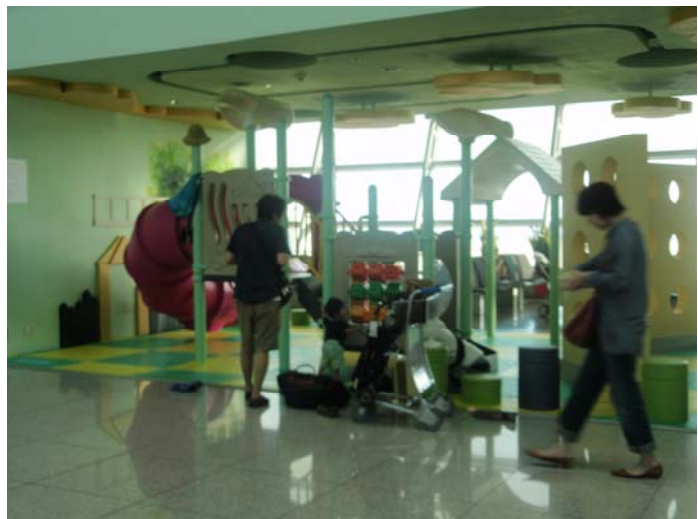
## 空港での過ごし方

畑野 友里恵

世界の航空関連データを収集・提供するオフィシャル・エアライン・ガイド社によると、2007年9月時点で世界には8728の空港があり、アジアは112（うち日本925）の空港を所有している。空港運営は、世界的にみると「空港の所有」と「空港の運営」が一体になっているのが主流である。しかし日本は、戦後に国や自治体が空港の土台となる滑走路や航行援助施設を建設したが、空港ターミナルをはじめとする空港施設については財政難だったために民間資金で整備をしていたという。その結果、日本では国や自治体が空港を所有し、空港の運営は空港ごとに設けられたターミナルビルが担当した。このような上下分離型は世界的に稀なやり方だそう。また空港には「着陸料」というものがあり、日本の拠点空港における着陸料は世界的にみても割高な水準である。日本の空港は世界の空港の所有・運営の形態・空港経営も大きく異なる。その空港経営において航空系収入（着陸料や施設使用料）・非航空系収入（免税店や物販、飲食店、駐車場などの商業収入）が売り上げの二本柱である。巨額になってしまう空港の建設・維持費を早期に回収しようとする、航空系収入の拡大が重要になってしまう。日本はこの傾向にある。

空港といえば、地方や海外に行く際に必要な交通手段の一つという考え方が一般的なものと私は思う。空港に必要とされているものとはいったいなんだろうか。調べてみたところ、①航空機を安全・確実・迅速に離着陸させる能力、②旅客や荷物の積み降ろしを安全確実に行う能力、旅客の扱いについては快適性も要求される、③航空機の整備・補給能力、④旅客・荷物を市街中心部へ（または市街中心部から）遅滞無く送る能力、⑤国際空港では、出入国管理・通関・検疫（CIQ）に関する業務、と空港に要求される機能というのは5つあることがわかった。この中で私たち旅行者が一番関係してくるものは②の“旅客の扱いについては快適性も要求される”という部分だろう。

私たちが普段行く空港での過ごし方といえば、携帯を使って誰かと「メール」や「電話」をしたり、自身が持っているオーディオ機器（iPodや携帯電話など）で音楽を聴いたり、本を読んだり、と、“空港”という空間において時間の使い方が限られてしまう。しかし最近の空港では、私たち旅行者が‘搭乗時間までより快適に過ごす’ということが重視され始め、書店や売店（薬局など）だけで



なく、規模の大きい空港に関しては、小さな子どもが遊べるキッズルームやインターネットラウンジ、喫茶店、リラクゼーションサロン、仮眠室、シャワールームなど、以前では考えられない設備が整っている。今回のスタディツアーでは、空港で過ごす時間が多かったのでいろいろなものを観察してみた。

まず、日本の空港（広島空港・国際線）では売店でお土産等を買っている搭乗客、パンを買いテレビを見ながら朝食を食べているサラリーマン。人々を観察していると、やはり旅行慣れしている人、そうではない人の区別がはっきりわかる。早朝だったのも関係していると思うが、個人で行動している人が少なく上で挙げた時間の使い方をしている人が少なかった。また、空港の中には職員や搭乗客のほかには見送りに来ている人しか見当たらなかった。

では韓国の空港（仁川国際空港）はどうだろうか。日本の空港（広島空港・国際線）とは比較にならないほど広く、空港内に歩き回る職員が圧倒的に多かった。またテロ対策なのか、銃を持ちながら巡回する警備員も多く、警備員を見つけると少し重苦しい雰囲気になった。空港内には食事をするレストランのような場所やカフェ、コンビニの近くに大きなテレビがある。空港の端に設置してあるテレビの前には、明らかに旅行者ではない人々が椅子の上に寝そべりテレビを観たり、寝たりとマイペースに過ごしていた。また他のテレビの前には昼休憩中の職員が寝ていたり、テレビを観ながら談笑したりと、やはり自分たちの空間を作り思い思いの時間を過ごしていた。携帯を使い電話をしている人や、オーディオ機器で音楽を聴いている人が多かった。空港に恋人を迎えに来て、出てきた恋人に走って抱きつくカップルや待っている彼女に花束を渡す彼氏、まるで映画のワンシーンを見ているかのような感覚になることもある。しかし銃を持って巡回している警備員とは対比的に、心が温まる光景だった。

設備については、インターネットラウンジや韓国伝統文化センターというものが目に付いた。インターネットは10分500ウォン（約40円）で少し高く感じる。韓国伝統文化センターでは韓国の伝統靴をモチーフにしたストラップを作ることが出来る。この韓国伝統文化センターは無料で体験でき、搭乗口に向かう途中にあるので搭乗時間を待つ外国の方が多かった。

今回空港で過ごす時間は、日本の空港より韓国の空港のほうが長かった。日本の空港では早朝だったものもあるが、何もすることがなく愛用の iPod 片手に朝食を食べ、ひたすら人間観察をしていた。韓国でも iPod が必要になるのかと思っていたが、人間観察をしていくうちに iPod



よりもその場の音の方が面白いことに気づいた。恋人たちが楽しげに話す声や親子の再会を喜ぶ声、仕事に疲れきった職員の声など普段では気づかない“音”に気づくことが出来た。拳銃を持ちながら巡回し、重々しい雰囲気醸し出す警備員がいる反面、家族・恋人との再会の喜びを確かめ合う安らかな雰囲気。この二つの異なる空間を持っているのが“空港”なのではないだろうか。

#### 参考 URL

○世界の空港・空港事情を追う-空港-フォーラム福岡（2009年9月6日取得）

[http://www.forum-fukuoka.com/airport/fukuoka/23\\_1823/](http://www.forum-fukuoka.com/airport/fukuoka/23_1823/)

○空港とは

<http://www.weblio.jp/content/%E7%A9%BA%E6%B8%AF>